公益財団法人 国立京都国際会館 広報誌

ICCKyoto

春 2013

Kyoto International Conference Center

巻頭インタビュー

60周年を越えて、さらなる「ワンカンパニー」としての挑戦 へ

1月に60周年記念式典を京都国際会館で開催された株式会社堀場製作所。
その代表取締役社長であり、世界27カ国38社を傘下に持つ
HORIBAグループを率いる堀場 厚氏に、企業と京都の今後についての想いを伺いました。

堀場 厚氏

・株式会社堀場製作所 代表取締役社長
・公益財団法人国立京都国際会館 理事

世界と戦っていくために、
国や市場の枠を越えた
「連携」を目指す。

すべてを社員の手で作り上げた60周年記念式典

木下：まずは、創立60周年おめでとうございます。また、今年1月に京都国際会館で御社の60周年記念式典を開催していただきまして、誠にありがとうございます。

堀場：こちらこそありがとうございました。当日は日本の全社員と海外から一部ではありますが、約100名の社員を呼んで、合計約2500名での開催でした。私としてはやはり本社のある京都で式典を行いたいという想いがあり、京都でこれほど大人数が参加する式典開催となると、会場は京都国際会館以外に考えられませんでしたので、迷うことなくお願いをいたしました。また、今回の式典は「すべてを社員の手で作り上げる」を目標としておりましたので、会場設営等を自由にさせていただいたことは本当に感謝しています。京都の歴史ある施設で、弊社のカラーが全面に出た式典を開催でき、大変嬉しく思っております。

時代の変化に対応し、世界と戦うための「絆」を作ることが課題

木下：私ども京都国際会館も2016年に開館50周年を迎えます。そこで、堀場社長に改めて60年という歴史に対する想いをお聞かせいただきたいのですが。

堀場：企業寿命は30年といいますから、60年を過ぎた弊社はいわば3回転目に入ってきています。今や従業員の6割は外国人、競合もほとんど欧米企業と、時代の変化を感じます。今後は京都に本社を置きつつ、如何に国内や海外の優秀な人材が連携し、世界と戦っていくかが課題になります。ですので60周年記念式典では、今後は国や市場の枠を越えたひとつの会社としての絆「ワンカンパニー」をテーマに取組むことを宣言しました。

決して大きくない市場規模の中で、京都の「良いもの」を評価する環境に育てられてきた

木下：分析・計測機器の総合メーカーとして、長年、京都を拠点に経営してこられたわけですが、御社が京都に本社を置き続けられた理由は何であったのでしょうか。

堀場：分析機器は、測定する物質により必要な技術が全く異なるので、簡単に1年や2年では作れません。また、極めてニッチですから、市場規模もそんなに大きくない。一般的には、ビジネスモデルとしてはあまり「うまみ」のない産業なのかもしれません。しかし京都の文化には、大量生産せず質の良いものを丁寧に提供することに高い価値を置くところがあります。弊社はその風土に合っていたのでしょう。

京都人は、企業を売上規模や従業員数ではなく「一流」と言われる「良いもの」を作るという視点で評価する。我々は京都ならではの環境に育てられてきたのだと感じています。

京都は伝統的な魅力を守り、より強い情報発信を

木下：京都という町を長年見てこられたお立場から、今の京都に対する想いをお聞かせいただけますでしょうか。

堀場：特に思うのは、景観保持にきちんと取り組んでほしいということです。最近は京町家の価値が見直され、店舗としての再生・活用や京都の風情を守る動きが出てきました。これは喜ばしいことですが、さらに言えば京都にはよりメリハリのある都市計画が必要だと思います。例えばパリのように、伝統的景観を守る区域をきちんと定めて整備する。京都でもそういった議論をし、内外に向けて強く情報発信をしていくべきでしょう。

京都国際会館に今後望むのは、もっと市民に親しまれるような取り組み

木下：「京都からの発信」というキーワードは、京都国際会館にとっても目指すべきところだと思っています。

堀場：その意味で、1997年に京都国際会館で京都議定書が締結された意義は非常に大きいと思います。世界中の国々が地球温暖化を含む環境問題の解決に向けて唯一合意した場とも言えるからです。
議定書の締結が京都国際会館で行われたことにはやはり理由があるはずです。借景となっている比叡山や目の前に広がる宝ヶ池の緑豊かな自然はこれ以上無いロケーションですし、建物の美的構成も大変素晴らしい。これらの環境が京都議定書の締結に大きな役割を果たしたのではないでしょうか。
国際会議場とは単に会場設備だけでは成り立ちません。宿泊施設などを含め、周辺環境をトータルで整えることが必要です。地元のサポートを得るためにも、多くの市民が京都国際会館に親しみ、会議の重要性を感じられるような企画をしていってほしいですね。

様々な分野の枠を越え、「ワンカンパニー」を目指す挑戦を続ける

木下：私共も堀場社長と同じ想いです。日本を代表する国際会議場として、最先端・高品質のコンベンションサービスと、全世界からいらっしゃる方々に上質な時間をお過ごしいただける環境をトータルで提供していかなければならないと考えています。最後に、今後の挑戦についてお聞かせいただけますか。

堀場：今後益々社会が進化していく中で、分析・計測機器の重要性も高まり、我々が貢献しなければならない分野も広がっていくと考えています。そのために様々な分野の枠を越えて連携していく必要があると思っています。簡単なことではありませんが、我々の事業が世界の環境保全や健康・安全、エネルギー問題の改善にも貢献できる誇りを感じながら、グローバルな「ワンカンパニー」を目指すチャレンジを続けていきます。

堀場 厚氏 プロフィール

1948年京都生まれ。甲南大学卒業後、カリフォルニア大学工学部へ留学。
同大学大学院を修了した後、米国のオルソン・ホリバ社へ入社する。ホリバ・インターナショナル社、ホリバ・インスツルメンツ社などでの海外勤務を経て、株式会社堀場製作所 海外技術部長に就任。1992年より同社代表取締役社長を務め、現在世界27カ国38社で展開するHORIBAグループを率いている。

木下 博夫 プロフィール

1943年生まれ。建設省建設経済局長、国土事務次官などを経て、2012年より京都国際会館館長・常任理事を務める。

当館の空間を彩る 美術品たち

現代の鼓動と、向き合う。

当館の正面エントランスから奥へ進むと、巨大なカンバスに描かれた赤と青のコントラストに目を奪われます。作者は、国際的に最も高く評価される日本人画家のひとり、菅井汲。写真左側の「ナショナル・ルート」は、菅井汲が作風を一変した1960年代に描かれた一連の作品で、明快な色やパターンの組み替えで構成されています。一瞬の逡巡も予断も許さない様々な力が殺到し、交錯する場としての現代の鼓動を伝えています。

【作者名】
菅井 汲（すがい くみ）

【略歴】
1919年3月13日 - 1996年5月14日
神戸市東灘区出身。昭和-平成時代の洋画家、版画家。国際的に最も高く評価されている日本人画家の一人である。本名は貞三。
中村貞以(ていい)、吉原治良(じろう)に師事。大阪美術工芸学校に学んだ後（病気の為に中退）、1937年から阪急電鉄宣伝課で商業デザインの仕事に就く。1952年渡仏、以来パリで制作。1965年サンパウロ-ビエンナーレで国際最優秀画家賞。1966年芸術選奨。力強い抽象的作風で知られる。版画でも受賞多数。77歳で死去。作品に「朝のオートルート」など。

（写真左）ナショナル・ルート
（写真右）大きな湖

For you 京都国際会館シェフが語る おもてなしの心

ジャンルも国も越えて、細かなオーダーにお応えしたお料理を。

京都国際会館併設のレストラン「グリル」。昭和41年の開館と共に歴史を重ね、数多くのお客様をおもてなししてきました。世界各国からお客様が来館されるこのレストランでは、フレンチをベースに、洋食、和食、中華など、あらゆるジャンルのお料理にご対応しています。
「事前にご相談頂ければ、オリジナルのメニューをお作りすることもできます」と語るのは、約15年間にわたり腕をふるい続ける高橋玲二シェフ。

「例えば、昨年の国際ダム会議の際には、主催者の方からご要望を頂き、ダムをモチーフにしたスペシャルカレーをご用意しました。また、ベジタリアンの方や宗教上の理由で食べられないものがある方など、お客様個々のご要望にも配慮しております。時には数千人分のお食事をご用意することもありますが、お客様の細かいオーダーを汲み取り、皆様に美味しい料理をご提供するのが当レストランのシェフの使命です。」
ご予約を頂けましたら、ご要望に合わせた料理を新鮮な食材でお作りできます。ぜひお気軽にお問い合わせください。

ダムをモチーフにしたスペシャルカレー

神泉苑のつつじ

岩つつじ折りもてぞ見るせこが着し紅ぞめの色に似たれば

和泉式部・後拾遺集150

「岩つつじの花を手折り見つめています。愛しい人が着ていらした紅染めの衣の色に、よく似ていましたので」

桜の盛りが過ぎる頃になると、入れ替わるようにつつじが咲き、葉の緑を埋め尽くすほどの鮮やかな色で私たちの目を楽しませてくれます。つつじは古くから日本人に親しまれてきた花で、和歌にも度々詠まれてきました。今回ご紹介する歌は平安を代表する女性歌人のひとり、和泉式部が詠んだもの。つつじの鮮やかな花の色に恋人の姿を重ね、思わず手折ってつぶさに眺める様子に、彼女の情熱的な恋心が伝わってきます。
京都のつつじの名所として知られる神泉苑では、紅紫や薄桃、白など様々な色のつつじが池の上まで咲き零れ、鏡のように水面に映り込む姿はなんとも優美です。
昔の和歌に登場するつつじは野生種の山つつじで、色はオレンジがかった明るい赤、花も現在よく見かけるつつじの半分ほどの大きさで、風情も異なるものでした。（現在の一般的なつつじは江戸時代に園芸種として交配されたものです。）山つつじは、京都国際会館や近くの宝ヶ池公園でその姿を目にすることができます。
つつじが満開を迎えると、京都の季節は夏へと移り変わっていきます。

春から初夏にかけては、京都国際会館の庭でもつつじが花開き、ピンクや紫の鮮やかな色で来館者の皆様をお迎えします。また、宝ヶ池公園では平安の貴族たちも愛でた山つつじの花が咲き、京都の風景を彩ります。

ミャンマー政府が来館

2014年ASEAN議長国に向けて

ICC Kyoto News

写真中央左：当館館長 木下博夫、右：ジン・ヨー外務副大臣

2013年3月14日、ミャンマー連邦共和国ジン・ヨー外務副大臣を長とし、駐日ミャンマー連邦共和国キン・マウン・テイン大使、ミャンマー政府関係者の皆様が京都国際会館の視察に来られました。2014年にASEAN議長国となるミャンマーが、日本で最初の国立の国際会議場の視察を行うことで、国際会議主催運営のロジにかかる知識の習得及び、理解と認識を深めていただきました。

今回の視察では、茶室「宝松庵」にて裏千家によるお茶席の体験や、国際会館についての説明のご聴講、大会議場、Annex Hall等の見学をされました。

当館の長年にわたる国際会議のノウハウや経験が今後、ミャンマーで開催される会議のお役に立てることを切に願っております。

京都国際会館 主催イベント 開催予定

第55回 宝松庵茶会

2013年4月29日（祝・月）

宝松庵茶会は昭和59年春より始まり、以来年2回（春・秋）の恒例行事となり、今春の第55回に至ります。自然の景色に囲まれた京都国際会館・宝松庵で、うららかな春の日差しとともにお茶を楽しむひとときを皆様にお過ごしいただければと思います。

乾杯の夕べ

2013年7月21日（日）～22日（月）※予定

京都市とドイツのケルン市の姉妹都市提携50周年を記念して、今年のテーマ国はドイツに決まりました。ドイツにちなんだお料理とお飲物をご用意して、皆様のお越しをお待ちしております。詳細につきましては、5月以降に当館HPにてご確認ください。

上記のイベントは一般の方もご参加が可能です。
イベントへの参加申込みや詳細につきましては当館のホームページでご確認ください。
＜京都国際会館ホームページ http://www.icckyoto.or.jp/ ＞

2013年4月～7月開催予定のイベント・会合一覧

（2013年4月15日現在）

日程	催事名	人数
4月1日	京都精華大学2013年度入学式・就任式	2,100人
4月3日～7日	第14回国際骨髄腫ワークショップ	1,700人
4月15日	アセアン特許庁シンポジウム2013	300人
4月18日～20日	第57回日本リウマチ学会総会・学術集会	5,000人
4月23日～26日	Beta Cell Workshop 2013 Kyoto	200人
4月28日	国際ロータリー第2650地区2013～2014年度地区協議会	1,200人
4月29日	第55回（平成25年春）宝松庵茶会	600人
5月10日～12日	第85回日本消化器内視鏡学会総会（ピックアップイベント）	7,120人
5月17日～18日	第53回日本リンパ網内系学会総会	400人
5月29日～31日	第62回高分子学会年次大会	4,000人
6月1日	京都コンピュータ学院創立50周年・京都情報大学院大学創立10周年記念式典	2,000人
6月2日～7日	第19回固体イオニクス国際会議	700人
6月12日～14日	第17回日本がん分子標的治療学会学術集会	700人
6月15日	第115回日本循環器学会近畿地方会	800人
6月19日	第6回MCCS-Asiaシンポジウム：認知の分子・細胞・回路機構	200人
6月20日～23日	Neuro2013(第36回日本神経科学大会・第56回日本神経化学会大会・第23回日本神経回路学会大会)	4,000人
6月23日～27日	第11回世界生物学的精神医学会国際会議（ピックアップイベント）	3,120人
6月29日	第39回近畿地区高等学校PTA連合会大会京都大会	3,000人
6月29日	第12回地球研フォーラム	280人
6月30日～7月4日	CLEO-PR & OECC/PS 2013	800人
7月2日～3日	第34回日本炎症・再生医学会	600人
7月7日	平成25年度公認スポーツファーマシスト基礎講習会（京都会場）	480人

※参加者200名以上の会議（参加者は概数）

ピックアップイベント

第85回日本消化器内視鏡学会総会

2013年5月10日～12日

日本消化器内視鏡学会は、設立当初より内視鏡機器、手技をはじめ内視鏡学全領域で全世界に対して指導的役割を果たしてきている学会です。今回は、「科学する内視鏡―あなたには何がみえ、何をみますか」をメインテーマに、会期を通じて盛りだくさんのプログラムが用意されています。

ピックアップイベント

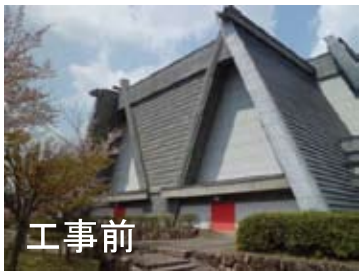
第11回世界生物学的精神医学会国際会議

2013年6月23日～27日

世界生物学的精神医学会連盟（WFSBP：World Federation of Societies of Biological Psychiatry）が隔年開催する国際会議で、世界各国の研究者が集います。日本での開催は初めてとなり、「脳科学から心の理解へのブレイクスルー」をメインテーマに、1700を超える発表が予定されています。

京都国際会館は、2016年の50周年に向けて装い新たにリフレッシュしていきます。

現在、耐震工事のため、外壁の改修を行っております。
それに伴い、設備改修により最新の会議環境を構築する予定です。



平成25年7月上旬～10月中旬までの期間、Room A の耐震改修工事及び
内装改修工事が実施される予定です。工事期間中は大変ご迷惑をおかけいたしますが、
何卒ご理解ご協力をお願い申し上げます。

※工事中も通常通り営業をしております。会場のご利用はお気軽にお問い合わせください。

▶「動画で楽しむ」京都国際会館

写真のみでは分からない当館の魅力を、ぜひ動画でご覧ください。

お手持ちのスマートフォンもしくは携帯電話の
バーコードリーダーを起動し、右のQRコードを
読み取ってください。
（一部の端末では動作しない恐れがあります。）

編集発行　公益財団法人 国立京都国際会館
住所　〒606-0001　京都市左京区宝ヶ池
TEL　075-705-1234（代）
FAX　075-705-1100
E-mail　com@icckyoto.or.jp
URL　http://www.icckyoto.or.jp/

ICC Kyoto
Kyoto International Conference Center
国立京都国際会館　検索

Ⓒ Kyoto International Conference Center.All rights reserved.

表紙：旧嵯峨御所 大覚寺 門跡
撮影：江嵜 為丸

平成25年4月15日発行 年4回発行